

みなさん、こんにちは。

路上観察の帰り道、明石公園のお堀沿いで学芸員の加藤さんが足元に白い花を発見。近づいてみると、どうもシロバナタンポポのようでした。暖かい陽気は2月も続くのでしょうか。

1. ワークショップ「発見！明石路上写真術」

1月27日(土)、今回の展覧会にフォトモで協力いただいた糸崎公朗さんを講師に迎え、16名の方が路上観察をしながらデジカメで記録するというワークショップを開催しました。

「自分が未来人になったつもりで街を観察してみると、今まで見ていたものが新鮮に見えて、新しく発見するものがたくさんあります。また、手軽に記録するにはデジカメが有効です」と糸崎さんから写真術についてのレクチャーがあり、スライドでこれまでの糸崎さんの作品を紹介してもらいました。「路上に残された門扉のレール」「登れない階段」「隣の家が残った壁」などを「超芸術：トマソン」と呼び、意図されずにできあがってしまったものを糸崎さんは「非人称芸術」と表現しています。デジカメで記録した写真のおもしろさを伝えるために始めた手法が「フォトモ」ということです。



午前中は写真術レクチャー



路上観察を開始



こんな所にパイプが

午後からは明石駅に集合し路上観察をスタート。糸崎さんの見つける「超芸術」に感心しながらみんなでシャッターを切りました。「電信柱でふさがれてしまった駐車場」「植木鉢に占拠された階段」などを発見していくと、参加者のだれもが街歩きの楽しさと新鮮さを理解しました。糸崎さんから「今日はみなさんのみこみが早いですね」という言葉も。



隣の家が残る



空き缶に支えられるプランター



ビルとビルの間に残された壁

約2時間の路上観察の後、博物館でみんなの写した写真を鑑賞しました。プロジェクターに映し出される写真を見ながら糸崎さんがコメントすると、「なるほどー」と納得したり、笑いが起きたりと楽しい鑑賞会になりました。

糸崎さんは「おもしろいものを記録しようというスタンス、コンテスト用ではない写真の楽しみ方を伝えていきたいです。これからも視点をずらして街歩きを楽しみながら写真を撮ってください」と話してくれました。各地で路上観察する糸崎さんの目には、明石の街角や魚の棚などの商店街がとっても元気で魅力的に映ったようです。

2. 路上観察の写真を近日公開予定！

今回のワークショップ参加者がこれから路上観察して撮影する写真を糸崎さんのホームページで公開予定です。参加者自身の視点で撮影した写真に糸崎さんがコメントをつけてくれます。明石の街にどのような超芸術がねむっているのかお楽しみです。

公開期間 2月20日(火)～3月21日(水)

公開場所 明石市立文化博物館のホームページからリンクします。